

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)					
市町村名	まくし 佐久市		ふりがな 箇所名	しゅうまくこもろせん (主)佐久小諸線		ましの たかせ 岸野～高瀬	事業年度 (完了年度は見込み)	H23年度～		H29年度				
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=1,400m W=6.5(10.25)m						H22年度末事業進捗率	0%					
	H23年度以降実施内容	同上						本工事費等ベース	0%					
	H23年度実施内容	地質調査、橋梁詳細設計、道路詳細設計 1式						用地補償費ベース	0%					
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降降				
財源内訳	事業費計(千円)	2,150,000		0		0		50,000		2,150,000				
	国庫支出金	1,182,500		0		0		27,500		1,182,500				
		その他												
		県債												
一般財源	967,500		0		0		22,500		967,500					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部	政策評価課				
									ランク	評点	ランク	評点		
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上			1,500台以上～10,000台/日未満		1,500台未満			2		2	
		代替道路	唯一の道路である			代替となる道路がある					0		0	
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある			駅やインターチェンジが20km以上にある		駅やインターチェンジに通じる路線でない			5		5	
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である			山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		A	4	A	4	
		観光地に通じる道路			観光地に通じる道路ではない					0		0		
		各事業特有の必要性(安全の確保)			5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)		5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)			4		4
		歩道未整備区間に歩道を設置			歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し			4		4		
	小計								19		19			
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)			県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)		該当なし			6		6	
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い			環境配慮がされているが現実性が低い		環境配慮をしていない		B	4	B	4	
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている			緊急輸送路(2次)又は、奥産、雪害、過疎に位置付けられている		特別な位置付けはない			0		0	
		小計								10		10		
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上			B/C 1.0～1.5未満		B/C 1.0未満			6		6	
		事業効果の早期発現 (H20以降降事業年数)	事業年数 5年未満			事業年数 5年～10年未満		事業年数 10年以上		A	3	A	3	
		コスト削減	全体的に構造物・規格等についてコスト削減を実施している。			部分的に構造物・規格等についてコスト削減を実施している。		コスト削減はしていない			4		4	
		小計								13		13		
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる			交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない			9		9	
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する			渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する		渋滞対策ではない		A	4	A	4	
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)			医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に関係ない道路			9		9	
		小計								22		22		
	計画熱度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い			市町村からの要望		特に要望がない			6		6	
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知			関係者中心に周知		特に周知していない		B	3	B	3	
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加			住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない			4		4	
小計								13		13				
費用対効果(B/C)		1.72			評価の合計				A	77	A	77		
事業周知	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は佐久市と小諸市を結ぶ重要な路線で、生活路線でもあり、佐久小諸間の最短ルートでもあるため利用者が多く、現況は非常に幅員狭小で、朝夕の通勤時には遅れもままならないため、渋滞を引き起こしている。計画区間の佐久橋においては、架橋から75年を経過し非常に老朽化しており、橋梁長寿命化計画では50年以内に補修という位置づけで、H20に調査を行った結果、損傷が激しく、平成20年12月より6tの重量規制をかけている状況である。このような状況であるため、佐久橋の架け替えを含むバイパス計画が早期に望まれている。												
	地域からの要望経緯	平成11年度より、県道岸野高瀬間バイパス建設促進同盟会が発足され、毎年要望を受ける。又、平成21年2月に促進同盟会、佐久市長で建設部長へ要望書を提出。												
	事業説明等の経緯	平成19年、20年と佐久市、促進同盟会へバイパス案を提示。平成21年12月に佐久橋の老朽化、重量規制について、同盟会、地元区へ説明。平成22年3月～5月に岸野地区区長会・高瀬地区区長会・根岸地区区長会・伴野地区区長会を対象に説明会を実施。平成22年6月に地元説明会を実施。												
	環境・景観への配慮項目	橋梁工事にあたり、千曲川の河川環境に配慮した計画・施工をおこなう。土工区間は盛土法面の緑化を行い、景観に配慮する。今後設計を進める中で環境及び景観について検討していく予定。環境配慮制度対象箇所												
	他事業・プロジェクトとの関連	計画区間内の佐久橋周辺では、毎年5月の連休にバルーンフェスティバルが開催され3万人近くの観光客が現れる。近隣に中部横断自動車道 佐久南I.C(仮称)が平成22年度に整備される予定である。												
特記事項	佐久橋を6tの重量規制で交通規制している。													
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他					
部意見	全体的に評価レベルが高く、重量制限のある橋梁を解消するための緊急性も認められる。地元の受け入れ態勢も整っているため、平成23年度から事業着手したい。					政策評価課		必要性、緊急性が認められる。						